

2021/12

リサーチ

NO. 134

通卷

191

令和3年12月25日

発行者
北海道公民館協会
会長 山本 進

060-0002
札幌市中央区北2西7
かでる2.7(9F)
道立生涯学習推進センター内
011-271-2825



北海道公民館協会会長

社会と公民館 (二年目)

北海道内の公民館関係の皆様、会教育関係の皆様には、日頃から当会の活動に際し、ご理解ご協力を賜つておりますことに深く感謝申し上げます。又、十月十三日から二日間にわたりて開催されました「第四回全国公民館研究集会北海道大会・第六十五回北海道公民館大会imもんべつ」の開催に当たりましては、新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきた状況下だったとはいえ、未だ終息しない中での開催でしたが、関係者の皆様のご協力によりしっかりととした感染予防対策を取つたうえで多く皆様にご参加頂きました。開催に当たりましては全国公民館連合会をはじめとする関係団体の皆様、地元紋別市の皆様、主管をしきりに感謝申し上げます。お陰を持ちまして、とても有意義な議論を積み重ねることができ、テーマである

さて、新型コロナウイルスの感染拡大による影響は二年目を迎えていきます。最近、第五波の感染拡大局面を乗り越えて、落ち着きを取り戻しつつありますが、新たな変異株の発生など、未だコロナ禍が人類にとって大きな脅威となっています。地域社会も大きな影響を受けており、特に公民館活動は、様々な行事や催しが中止を余儀なくされています。昨年に引き続き二年連続で中止となると、果たして今後継続できるのかが心配になります。

公民館は地域住民が集う事を前提として、その場を形成しているのであって、そういった集いが出来なくなることは、公民館の存在意義の喪失にもつながりかねません。

コロナ禍三年目をまもなく迎える中で、今後は地域行事の見直しなど

「今、公民館活動にできること（次世代へあるべき姿の公民館を引き継ぐために）」のと、参加者の皆様と意識を共有し、コロナ後に向けて公民館の取組をしつかり考える事が出来たと思っています。

も課題として挙げられてくるのではないか。その意味では、今までの事業を見直す中でも残すべきもの、引き継ぐべきものは何なのか、改めて考えて頂きたいと思います。コロナ禍においては、不都合な事が多いのですが、良い面もあつたとすれば、テレワークや遠隔授業でのICTの活用です。以前も書かせて頂きましたが、社会教育主事講習は、北海道教育委員会や関係機関のご尽力により、多くの講義をオンラインで受講できるようになりました。二年目になった事で、前年の課題を克服し、より良いプラットフォームがされたと思っています。私も、北海道議会議員の笠井龍司さん、北海道科学大学理事長の苫米地司さんと一緒に社会教育に関する対談を行いました。三人は同じ会場で話をして、他の方はオンラインで聴講する形式です。その直前の講義は東京大学の牧野教授の講義で、韓国や台湾の方々が参加し、それぞれの社会教育について発表されていました。まだ前号の「リサーチ」でも書かせて頂きましたが、六月に開催された公民館職員研修会でも「アロマ教室」をオンラインで行つていまします。これからは、このようにオンラインで行うことも増えてくると思いますので、公民館職員のスキルとしてICT技術の活用は必須になつて

来ると思います。改めてこういったことを学ぶ研修等を進めていきたいと思います。

また、十二月四日に愛媛県で開催された「地域教育実践交流会」にオンラインで参加しました。この研修には、百七十名あまりの方が参加し、ほとんどがオンラインでの参加だったと思います。一時、ブレイクアウトルームという分科会に全員が接続できないというトラブルもあつたのですが、主催者の方が解決方法を示した（具体的には一旦オンラインから全員が抜けて、改めてログインする）ことで解決し、全体会議や分科会もスムーズに行なうことが出来ました。社会教育関係の行事は当然トラブルの発生もあり得ることで、それ相応の準備はしているもののオンラインはその場にいない人が多く、一度切断すると再接続が困難な場合もあるなど、トラブルも経験しておかないとうまくいかないように思います。どちらかというと、社会教育の担当者はコミュニケーション能力が高く、他者の立場に立つて運営することに長けていると思いますが、ICTの知識も必要となると、それはそれで大変な努力も必要になります。

コロナ禍一年目の二千二十年はオンライン学習の大きな飛躍の年でもありました。コロナ禍は早く収束し

てほしいですが、これらのスキルはしつかり身に付けていただければと思います。広い北海道からも次世代のオンラインを活用した社会教育活動を推進していきましょう。

皆さんも含めてこれらの団体を主導される皆さんの公民館にかける情熱は大変力強く、組織にとって優れたリーダーの存在がいかに重要であるかを再認識させられました。

リーダーの存在

公益社団法人全国公民館連合会
会長 中西 彰



今年も寒くなつてしましました。十月中旬に全国公民館研究集会北海道大会で訪れた紋別市は、そろそろ

厳しい冬との闘いが始まっている頃でしようか。滞在中は晴天に恵まれ、明るい色合いのオホーツクブルーに感動しましたが、その海も風雪が舞う景色に変わり、ガリンコ号が一月の出番に向けて準備を整えていくことでしょう。

昨年コロナ禍により全国七ブロックの中で唯一参考での大会を開催されれた北海道ブロックでは、今年度も半数以上のブロックで通常開催が出来ない中、昨年に引き続き参考による開催を成功させた原動力は、北海

道公民館協会、北海道公民館振興首長会をはじめ、関係者の並々ならぬ尽力によるものと敬意を表します。とりわけ、現職のみならず歴代会長さんも含めてこれらの団体を主導される皆さんの公民館にかける情熱は大変力強く、組織にとって優れたリーダーの存在がいかに重要であるかを再認識させられました。

本連合会でも「リーダーが育つ公民館」をテーマの一つに掲げて事業を進めています。優れたリーダーと言つてもその姿は多様であり、大河ドラマ「青天を衝け」の渋沢栄一や、映画の「のぼうの城」の成田長親、ドラマ「半沢直樹」などの多様なリーダー像に心打たれた人も多い事でしょう。そこで「優れたリーダーとは一体何か」を考えてみたいと思います。

明治安田生命保険相互会社が実施している「理想の上司」のアンケート結果が公表されています。誰が選ばれたかは省略するとして、選んだ理由をみると「頼もし」「親しみやすい」「指導力がある」「知性的・スマート」「おもしろい」「落ち着きがある」「明るい」「天才肌」「優しい」「熱血」「兄貴肌」「姉御肌」などがありました。

まずは理念。何のためにどんなことをのために事業を行うのか。次にビジョン。三十年先ほどのようなライフルスタイルになるのか。そして戦略。自分たちが成し遂げたいことをどのように実行していくのか。さらにはその下に、方法論や技術論などを加味した戦術や短期的な計画があるというものです。組織のトップであれ、中間に位置する管理職であれ、これらが不明確なまま漫然とした思考で対応したり、あまりに放置が過ぎたりすると部下はどうすればよいのかわからず、やむなく組織としての理念や戦略を共有しないまま業務を行うことになりかねず、健全な組織とは言えません。少なくとも理念とビジョンを上層部が明確に保持して、然るべきタイミングで披露するなり、それを感じ取れるような振る舞いをするなどの工夫が必要です。社会教育創成期にリーダー的な存在として活躍した鈴木健次郎さんも秋田県で校長をしていたときに「汝なんのためにそこにありや」との言

葉を残しました。社会で他人と接することがあれば、あらゆる場面でリーダーになることがあります。これは職場に限ったことではありません。家庭でも保護者という立場になればリーダーであることを求められます。子供たちが危機に接したときに保護者が一定程度の自信を持つて対応できるか。これもまたリーダーの覚悟が求められる場面となります。したがって社会教育に課せられたリーダー育成は、人々の実生活において必要不可欠なものとなります。

また、頼りになるリーダーも悩み苦しむことがあります。それを支える人もまた、その苦悩を理解するところ、リーダーも安心して苦悩できます。

人々の支え合いとはこのようない「他人に対して思いを巡らすこと」にあるのではないかと考えます。私は、公民館の連合組織のリーダーとしての職責を全うするための覚悟を決めました。そして、日々苦悩しています。その苦悩を一人で抱え込まずに共有したときに支える人の一言で救われることがあります。リーダーとともに共有した人々のそれぞれが理念やビジョンを共有し、戦略をもつてその職責を果たしていくことが、組織を健

全に運営する強固な地盤を築くと信じて疑いません。全国公民館連合会

十月十四日（木）、十五日（金）

北海道公民館振興首長会
会長 西山 猛

第四十三回全国公民館研究集会・第六十五回北海道公民館大会INもんべつ～変革期の公民館運動

冬本番を迎えて北海道も厳しい寒さが訪れます。皆様には健康と安全にご留意され、良いお年をお迎えください。新年も公民館活動の振興にリーダーを拝命した身として、邁進していきます。良き師として私をご指導くださいますようお願いいたします。

冬本番を迎えて北海道も厳しい寒さが訪れます。皆様には健康と安全にご留意され、良いお年をお迎えください。新年も公民館活動の振興にリーダーを拝命した身として、邁進していきます。良き師として私をご指導くださいますようお願いいたします。

冬本番を迎えて北海道も厳しい寒さが訪れます。皆様には健康と安全にご留意され、良いお年をお迎えください。新年も公民館活動の振興にリーダーを拝命した身として、邁進していきます。良き師として私をご指導くださいますようお願いいたします。

研究集会北海道大会・第六十五回北海道公民館大会が開催され、道内はもとより、全国より公民館活動に携わる多くの皆さんに参加し、研修と連合会長への期待も大きく、その重圧に潰されず、期待を裏切らないように、日々公民館活動の振興に邁進して行く所存です、年が明ければ令和も四年目を迎えます。よく「新しい時代」と言いますが、毎日が新しい時代です。取り残されることがないようリーダーとしての苦悩を続けて、期待に応えて参ります。

た。

地域社会での若者の力をどう生かしていくのか?という点で真摯に前向きに発言し主張する高校生が、頼もしく感じられました。

また、北海道の子供たちの自己肯定感の向上という大きな課題も頂きました。

最終日は、昨年と同様に防災の専門家による災害対応や防災全般に関する研修を行いました。

流水や酷寒の厳しい土地ではあります
が、豊かな海産物資源や観光の
メツカとして、そこで暮らす人々の
たくましさと温かさに触れさせてい
ただいた二日間でありました。
紋別市の皆様、関係各位の皆さん
に心より感謝とお礼を申し上げま
す。首長会としても今大会の成果を
しつかりと受け継ぎ、新たな飛躍の
一步を踏み出そうと決意を新たにし
ています。

「子どもたちをよろしく」

映画上映会をみて

富良野市教育委員会社会教育課
藤野翔太

十一月二十七日、北海道公民館協会の事業であり、富良野市教育委員会の「いじめ対策事業」である「子どもたちをよろしく」上映会が行われました。この映画の設定上、誰一人救われることのない展開に、同じ世代の子を持つ親の立場としても辛く悲しく、非常に重たい気持ちになりました。

ただこの展開がリアルな社会の中にも少なからず現実にあることだと感じ取つたのは、家族以外の大人の関わりが全くないことです。

中学生は大人というには早すぎて、子供というとちょっと大人びている多感な時期です。これから大人の階段を上つていく難しい時期において「いじめ」は、自分の力で解決する問題としてはあまりにも大きく、自分一人では何も出来ず、誰にも相談できず、孤立してしまうということもまた現実にあり得ることだらけ、第三者の大人の介入がないと解決には向かうことすらできないことがあります。

それがこの映画では、学校の先生や行政、地域の関わりが描かれていました。

十一月二十七日、北海道公民館協会の事業であり、富良野市教育委員会の「いじめ対策事業」である「子どもたちをよろしく」上映会が行われました。この映画の設定上、誰一人救われることのない展開に、同じ世代の子を持つ親の立場としても辛く悲しく、非常に重たい気持ちになりました。

ただこの展開がリアルな社会の中にも少なからず現実にあることだと、いうことも認めざるを得ないことでしすし、社会の抱える闇の一つとしてしつかり認識しなければなりません。

この映画の問題提起として一番感じ取ったのは、家族以外の大人の闇わりが全くないことです。中学生は大人というには早すぎて、子供というとちょっと大人びている多感な時期です。これから大人の階段を上っていく難しい時期において「いじめ」は、自分の力で解決する問題としてはあまりにも大きく、自分一人では何も出来ず、誰に

も相談できず、孤立してしまうといふこともまた現実にあり得ることだといふことは、第三者の大人の介入がないと解決には向かうことすらできないことだと思います。

それがこの映画では、学校の先生や行政、地域の関わりが描かれていました。

家庭の問題はそれぞれ事情が異なりますが、家庭の状況をある程度把握できる立場にある学校は、子供たちの変化にいち早く気づくための眼を持ち、児童相談所や教育委員会への連絡や家庭訪問へつなげ、何からかの関わりを持つていけば少なくとも最悪の結果は免れたのではないでしようか。今回の映画で描かれていた直接的ないじめは、周りの目に留まることもあるでしょう。

しかし、現在急速に普及しているスマホやSNSを使つたいじめは、学校や地域の眼だけでは発見しづらく、また、家庭に対しても一種の聖域のように第三者が介入することが難しいとされてきているため、より陰湿で悪質化し根の深いいじめに發展しやすく、表面化しづらいものとされてきています。

だからこそいじめは、当事者となる子供がSOSをあげやすい環境を、我々大人が作つていかなければならないと思います。

今回のテーマである「いじめ」を完全に無くすることは出来ませんが、人間が個人として個性を持つて生きていく以上、自分と価値観の合わない者を排除しようとする気持ちは、誰しもが持ちうる感情であると思います。それは、子供の世界でも大人の世界でも同様です。

しかし、その感情を他人にぶつけ

るかぶつけないかをコントロールする理性を育むのが、育ってきた家庭環境であり、今では関係が希薄になりつつある「お隣さん」と言われる人たちをはじめとする地域に住む人たちとの交流であり、学校での大人や友達同士の環境であります。

我々大人の役割は、子供が間違いを起こしたときにそれを認め合い、道を正していく環境を作っていくことが重要であると言えます。

「学校を核とした地域づくり」を推進する立場で、いかにその環境を作ることができるか、大きな課題であります。しかし、地域が学校や子供たちとの関わる機会を創る中で、通学路に立つて子供たちを見守る活動等に参加する住民の意識の醸成と、そのような活動が無くとも「大丈夫かな」「何かないかな」と子供を見る・気にかける大人の「眼」を増やすこと。そして、その子どもたちがSOSを出したい受け取ることのできる、子供たちから信頼された大人（親）になること。それが社会教育を担う行政職員として、また地域に暮らす大人の一人として、この映画を見て何ができるのか。これが、今私の思う事です。

道教委通信

★令和三年 第三回北海道議会定例会一般質問について

令和三年第三回北海道議会定例会一般質問において、「生涯学習の推進について」質疑がありましたのでお知らせします。

【質問】自民党・道民会議

内田 尊之 議員

道教委では平成十三年に生涯学習推進の拠点施設として、道立生涯学習推進センターを設置し、市町村や高等教育機関、産業界と連携を図りながら社会の要請に応えるとともに道民の様々な学習機会を提供するため、目玉施策として道民カレッジを開講し二十年が経過しております。

「人生百年時代」と言われる現在、社会が大きな転換期を迎える中、自らの人生をより豊かにするために生涯学習や社会教育の重要性は一層高まっていると言えます。また、新型コロナウイルス感染症拡大は人々の暮らしを根底から搖るがし、生涯学習や社会教育においても施設の利用制限や講座の中止など、大きな影響を及ぼし、今後もうなるか不透明な状況になつております。

ます。

こうした中、オンラインによる誰もがいつでも、どこでも学べる学習環境の整備や人と人が繋がり学び合う場の大切さが改めて求められていますが、道民カレッジにおいてはインターネット講座が行われているものの、講座案内の冊子や学習歴を記録する手帳など、アーティックが多くICT化がまつたくというほど進んでおりません。

また、令和元年のカレッジ登録は約三万四千人となつてますが、その中で実際に講座を受講した人はわずか一割にも満たないと聞いております。道教委では、このような実態にある道民カレッジを見直すため、既に北海道生涯学習審議会で議論されたと承知しておりますが、これまで幾度も我が会派の同僚議員が道民カレッジについて質問し、そのため教育庁はリカレント教育の充実や社会ニーズを的確に捉えた多様な学習機会の提供などについて検討する答弁をされておりますが、

しかし、一向に改善傾向が見られないので、改めて議会や審議会の議論を踏まえて、現在、道民カレッジはどのような検討が行われ、今後どのように考えていくのか教育長にお伺いいたします。

今後、道民カレッジの内容等を見直し、道民の多様で豊かな生き方・暮らし方に 対応した在り方を検討してまいります。ただし、教育長より、道民のニーズに即した見直しをするという答弁をいただきましたが、今度こそ、不退転の決意で着実に事業の見直しに取り組むことを進めていくよう強く指摘しまして質問を終わります。

（指摘）

生涯学習の推進について教育長より答弁をいたきました。生涯学習の推進方策、特に道民カレッジの在り方については、これまで何度も、課題や問題点について指摘をされ、その都度、改善に着手すると答弁してきた経緯があります。一向にその結果が見えてこないことから、改めて、道教委の決意を確認する意

○令和三年度「全国家庭教育支援研究協議会」・「全国公民館研究フォーラム」合同大会
家庭教育支援チームなどの家庭教育支援を推進する多様な主体が、公民館などの社会教育施設等と連携することで、保護者が地域において孤立せずに安心して家庭教育を行うための、切れ目のない支援方法を協議します。

【教育長の答弁】

道教委では、これまで、道民カレッジ事業を中心に道民の生涯学習の推進に取り組んできたが、継続的に受講している道民が少ない・手続きなどのICT化が進まず、利便性に乏しい・民間等においても同様の事業が展開されているなど、時代のニーズに応えられない面があると認識。北海道生涯学習審議会からは・ICTを効果的に活用した生涯学習の推進・希望する方々への学び直しの機会の提供・地域の人づくりや指導者養成など、今後の事業のあり方を検討するべきとの意見。

道教委では、これまで、道民カレッジに対し、もう既に役割は終えたのではないか、という厳しい意見も出ています。また、名称は道民カレッジとなつてますが、利用者のほとんどが札幌市民によるものであります。地方の住民にとっては、恩恵が少なく、受講しにくいなどという課題もあると聞いております。ただ今、教育長より、道民のニーズに即した見直しをするという答弁をいただきましたが、今度こそ、不退転の決意で着実に事業の見直しに取り組むことを進めていくよう強く指摘しまして質問を終わります。

主 崔 文 部 科 学 省

期日 令和四年二月四日（金）

開化刀法

〇令和三年度「ともに学び、生きる共生社会コンファレンス 北海道
～障がいのあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教

社会における障害理解の促進、実践者同士の学び合いによる学びの場の担い手の育成、全国各地における障害者の生涯にわたる学びの場の拡大・充実などを趣旨に開催します。

主催 文科省・道教委
共催 医療法人 稲生会
期日 令和四年二月五日（土）
開催方法 オンライン（ズーム）

○令和三年度「地域生涯学習活動実践交流セミナー」～地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働～

実践事例の交流等を通して、北海道における生涯学習活動の一層の推進を図ることを趣旨に開催します。

主催：道立生涯学習推進センター
北海道社会教育主事会協議会
期日：令和四年二月十五日（火）～十六日（水）
開催方法：オンライン（ズーム）

事務局より

◇令和四年度総会

リモート参加の方々が多くいましたが、とても良い学びが出来たと思います。研修会記録DVDがありますので、必要な市町村がありましたらお知らせください。

観賞会・熟議を十一月二十七日
(土)に無事実施いたしました。
リサーチ八月号でご案内しております
したが、釧路市一〇一名参加、富良
野市四十二名参加、名寄市七名参
加、東神楽町十名の参の合計百六十
名の参加になりました。

本協会の事業としてはもう少し町村の参加を期待していましたので、次年度の実施にいた考えます。

次年度も実施したいと若手ます
参加者のアンケート、熟議でのま

とめなどから、映画を見て衝撃を受けた方が多かつたとのことです。 実話をもとに制作されていますの で、音楽の周りで起つていろいろな

皆様の周りで起ころんでいることでも苦しく思つたことでしょう。

道教委でもいじめ対策はしていませんが、実話での話し合いはしています。

せん、きれいごとのいじめ対策ではなく社会教育の立場から地域、子供たちに声をかけ大人が見守つていただきたいと思います。

いじめは完全になくなることはありませんが、「命」の大切さを教え、少しでも不登校を減らし明るいまちづくり、学校教育の現場で子供たち

の声が響くようになりますよう考え

てみてください。

ま
できましたこと感謝いたします。
令和四年一月に令和三年度最後の

役員会があります。ご意見があります
したらお寄せください。